

久留米大学整形外科専門研修プログラム 目次

1. 久留米大学整形外科専門研修プログラムについて
2. 久留米大学整形外科専門研修の特徴
3. 久留米大学整形外科専門研修の目標
4. 久留米大学整形外科専門研修の方法
5. 専門研修の評価について
6. 研修プログラムの施設群について
7. 専攻医受入数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. サブスペシャリティ領域の連続性について
10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
11. 専門研修プログラムを支える体制
12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
13. 専門研修プログラムの評価と改善
14. 専攻医の採用と終了

1. 久留米大学整形外科専門研修プログラムについて

(久留米大学整形外科)

久留米大学整形外科は、昭和7年に久留米大学の前身である九州医学専門学校として日本で11番目に誕生した歴史のある医学部整形外科教室です。これまでに500名を超える整形外科医が在籍し、現在、32の関連施設で120名以上の医局所属の医師が活躍しています。開講以来85年に亘り、一貫して地域に根付いた医療を実践して、文字通り地域医療を支えてきました。

(診療方針)

基礎医学の知識を基盤として、整形外科医としての専門的知識や技術を用いた診察、検査を実施して診断を行い、治療方針を決定して、手術、薬物、リハビリテーションなどの治療を行います。常に各分野の最新医療を取り入れ、毎日の診療に役立てることが私たちの診療の基本方針です。

私たちは、先進医療を臨床で実施する前に、国内外での研修実績を積み、常に安全に実施できるように日々励んでおり、診療分野ごとに十分な研修を積んだ専門の医師が対応しています。また、国内外の学会の参加や発表のほか、先進的な知識を習得するため、全国から著名な講師を招聘して、日本整形外科学会が認定する研究会などを積極的に開催しています。

(専門研修プログラム)

久留米大学整形外科の専門研修プログラムでは、各専門分野の指導医が責任をもって専攻医の教育・指導にあたります。臨床で他科との連携はもちろん、基礎医学研究では基礎系教室と連携し、アカデミアとして総合的なレベルアップを目指します。私たち久留米大学整形外科研修プログラムの構成員は、国内外の施設研修や、種々のワークショップの参加などを積極的に行い、より高度な専門研修の環境づくりに励んでいます。

専攻医自身も主体的に学ぶ姿勢を持つことが大切ですが、自己の知識や技術を高めるだけではなく、チーム医療の一員としての自覚を持ってコミュニケーション能力を磨き、医療スタッフや患者とその家族に信頼される医師でなければなりません。同時に常識ある社会人としての人間性と資質を身に着けることも、グローバルに活躍する医師にとっては重要です。

整形外科として研修で経験すべき疾患・病態は、骨、脊髄、筋肉、腱、靭帯、軟骨など多岐にわたり、運動器官を構成するこのような全ての組織の疾病、外傷、さらには加齢変化です。また、新生児から高齢者までのすべての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患・外傷に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制を取ります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の研修領域で定められた単位数以上を習得し、4年間で48単位を習得するプロセスで研修を行います。整形外科研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患者数が500名以上、年間手術件数がおおよそ40例です。当プログラムは2017年度の新患者数90,180名、手

術件数 14,474 件の豊富な症例数を有しており、必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。

また久留米大学整形外科では教室同門の参加する 5 月の開講記念会、12 月の同門会では、基幹施設・連携施設における研究発表と、全国から著名な講師を招聘して講演会を行っています。また、専攻医には研修早期の段階で、西日本整形・災害外科学会をはじめとした、学会・研究会への参加、発表、学会誌への投稿の指導を行っています。整形外科医となった後の進路相談・指導の一環として、整形外科各部門をサブスペシャリティとして、深く研究（基礎医学・臨床ともに）を希望する専攻医には、レジデントとして各グループに所属することを勧め、大学院への進学と博士号の取得に関する指導を行います。

2. 久留米大学整形外科専門研修の特徴

久留米大学整形外科専門研修プログラムの特徴を一言で言うと、85 年の歴史で築かれてきた 32 の研修施設群で、独自に効率よく研修ができることです。

基幹施設および独自の連携施設で、脊椎外科、関節外科、スポーツ整形外科、手外科、外傷、腫瘍、小児整形外科など専門性の高い全ての診療部門を網羅しており、専攻医は早くからこれを研修することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。また基幹施設である久留米大学病院における研修では、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修に加えて、大きな特徴である大学院大学の特徴を活かし、大学院進学、博士号取得に備えた臨床研究および基礎研究への深い関わりを持つことができます。

また当プログラムでは整形外科分野の多様性にいち早く対応できるよう、久留米大学整形外科では機能分担と地域医療の充実を目指して、大学病院に脊椎脊髄、骨軟部腫瘍、手外科、高度外傷、救急救命センターを集約し高度急性期医療に対応しています。また、同じく久留米市内で大学病院から約 5km の距離にある久留米大学医療センターには、関節外科センターとして肩関節、肘関節、股関節、膝関節、足関節、スポーツ整形外科、運動器リハビリテーションを担当する指導医を配置し、人工関節や関節鏡を駆使した高度な手術から、回復期リハビリテーションまで、一貫した診療を行います。各部門には、それぞれの専門分野に精通し卓越した技術を持つ責任医師がおり、診療、教育、研究に従事しています。

総合的な整形外科医を育成するために、麻酔科など、必要があれば他科と連携して、整形外科以外の研修を行うことができるのも久留米大学整形外科での研修の特色と言えます。

久留米大学整形外科(共通)週間予定

月曜日	
午前	抄読会・術後カンファレンス、教授総回診
午後	術前カンファレンス(月に一回医療センターと合同)

久留米大学病院スケジュール

		月	火	水	木	金
脊椎	午前	脊椎専門外来 (教授1名、助教専門医2名)	手術(2列)	脊椎外来 (准教授1名、助教2名)	手術(2列)	脊椎専門外来 (教授1名、助教1名) 手術(1列)
	午後	脊椎専門外来(准教授1名、助教専門医1名) 側弯症外来	手術(2列)	脊椎外来 (准教授1名、助教2名)	手術(2列) 脊椎勉強会・脊椎回診	手術(1列)
外傷・手外科	午前	外来手術	手外科・特殊外傷専門外来 (教授1名、助教専門医1名)	手術	手外科・特殊外傷専門外来 (教授1名、助教専門医2名)	手外科外来 (助教1名)
	午後	救命センター手術	手外科・特殊外傷専門外来 (教授1名、助教専門医1名)	手術 手外科・外傷回診	手外科・特殊外傷専門外来 (教授1名、助教専門医2名)	手外科外来 (助教1名)
骨軟部腫瘍	午前	手術	腫瘍外来 (准教授1名)	手術	腫瘍外来 (准教授1名)	腫瘍外来 (講師1名)
	午後	手術		手術 腫瘍回診	腫瘍外来 (准教授1名)	腫瘍外来 (講師1名)
リハビリ 骨粗鬆症	午前	リハビリ・骨粗鬆症外来 (教授1名)			リハビリ・骨粗鬆症外来 (教授1名)	
小児整形	午後			小児整形外来 (講師1名)		

久留米大学医療センタースケジュール

		月	火	水	木	金
股関節・ 下肢関節症全般	午前	股関節・下肢関節症全般外来 (特命教授1名、助教専門医1名) 手術	股関節・下肢関節症全般外来 (教授1名、助教専門医1名) 手術	股関節・下肢関節症全般外来 (特命教授1名、助教専門医1名) 手術	股関節・下肢関節症全般外来 (教授1名、助教専門医) 手術	手術
	午後	総回診 手術	手術	股関節・下肢関節症全般外来 (教授1名) 手術	手術	手術
膝・下肢スポーツ	午前	膝関節・下肢スポーツ外来 (助教専門医1名)	手術			
	午後	総回診	手術		膝関節・下肢スポーツ外来 (助教専門医2名)	
肩肘・スポーツ	午前	手術		肩肘・上肢スポーツ外来 (准教授1名、助教専門医1名)	手術	
	午後	総回診 手術			手術	肩肘・上肢スポーツ外来 (准教授1名)

①専門研修関連施設

基幹病院である久留米大学病院では、脊椎脊髄、高度外傷、手外科、骨軟部腫瘍を研修することができ、また上級医を目指すために博士課程も併設されています。日本でも有数の高度救命救急センターが併設されておりハイエナジー損傷に伴う脊椎外傷、骨盤骨折など他科との連携を行うチーム医療で治療していくことが可能です。

また、高度専門研修病院として関節外科に特化した久留米大学医療センターでは、上肢：肘・肩関節、下肢：股関節、膝関節、足関節など、人工関節や関節鏡などの関節整形外科に特化した研修を受けることが可能であり、またそれらの知識を元にリウマチ、スポーツ整形、小児整形への知識を深めることが可能です。久留米大学整形外科のスポーツ医は、国内外のラグビーの帯同など、国際的なフィールドでも活躍しています。

連携施設では、都市型総合研修病院として、年間 1,500 症例以上の手術件数を扱う総合病院である聖マリア病院が同じ久留米市内にあり、さらに福岡市の中心地で救急医療を担う済生会福岡総合病院も連携施設として研修が可能です。聖マリア病院、済生会福岡総合病院のような大規模総合病院では救急医療としての外傷に対する研修に加えて、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修（聖マリア病院：上肢・手、脊椎、外傷、小児整形、済生会福岡総合病院：上肢・手、股関節、脊椎、外傷）を受けることができます。

また、福岡県南を中心として県外にまたがる各地域の地域医療を担う、市立病院・公立病院・済生会病院など複数の中大型病院が当プログラムに所属しています。各連携病院は各地域医療の拠点となっており近隣の個人の病院や医院と密な連携をとっています。いずれの連携施設も豊富な症例数を有しており、連携施設研修では、施設の特徴により差はありますが、毎年 100 件以上の手術執刀経験を積むことができます。

それぞれの関連病院は大学病院、大学医療センターと密接な関係にあり、必要があれば高度救命救急センタードクターヘリで患者搬送なども実施しています。

診療実績

門研修基幹施設である久留米大学病院整形外科と連携施設全体の2017年度における指導医数57名、年間新患数89,387名、年間手術件数14,345件と十分な指導医数・症例数を有し、質量ともに十分な指導を提供できる体制です。

No.	施設名称	新患数 (2017)	手術数(2017)								
			脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	計
0	基幹施設 久留米大学病院	1,808	430	120	68	262	0	0	1	100	981
1	連携施設 久留米大学医療センター	1,504	0	209	512	38	24	119	0	1	903
2	岩尾整形外科病院	8,300	0	111	50	205	0	0	13	15	394
3	社会保険田川病院	2,008	4	93	56	266	0	3	9	12	443
4	熊本セントラル病院	1,012	22	99	133	314	0	20	13	50	651
5	済生会日田病院	1,174	0	13	24	336	0	0	0	2	375
6	薩摩郡医師会病院	576	0	9	25	6	0	0	0	0	40
7	百武整形外科病院	8,711	0	139	398	150	0	112	4	10	813
8	医療法人藤川病院	1,390	0	22	23	39	0	3	0	1	88
9	医療法人 田中病院	1,650	0	0	0	118	0	0	0	0	118
10	啓心会病院	998	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	済生会福岡総合病院	1,300	114	28	15	572	0	0	0	2	731
12	大牟田市立病院	425	0	117	169	9	0	0	20	1	316
13	公立八女総合病院	1,016	2	72	11	148	2	4	2	6	247
14	筑後市立病院	3,568	0	85	91	370	0	35	21	5	607
15	柳川リハビリテーション病院	1,355	0	2	140	4	2	0	1	0	149
16	聖マリア病院	6,720	102	85	75	1,030	5	0	7	3	1,307
17	永田整形外科病院	12,032	143	39	100	552	23	1	0	0	858
18	慶仁会川崎病院	3,283	87	495	356	288	55	1	0	20	1,302
19	甘木中央病院	3,426	0	0	0	322	0	0	0	2	324
20	高邦会 高木病院	220	1	13	20	277	0	3	0	0	314
21	宗像水光会総合病院	2,116	0	26	21	294	0	2	0	0	343
22	済生会二日市病院	1,430	28	11	0	403	0	0	0	0	444
23	戸畑共立病院		76	232	222	306	0	100	35	32	1,003
24	JCHO久留米総合病院	1,580	0	6	26	45	0	23	0	3	103
25	村上外科病院	7,435	0	35	42	171	0	30	0	10	288
26	甘木朝倉医師会病院	646	0	20	63	147	0	0	4	3	237
27	城内病院	4,064	6	214	143	357	8	14	22	16	780
28	済生会嘉穂病院	1,133	0	23	12	20	0	6	0	1	62
29	久留米リハビリテーション病院	60	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	北福島医療センター	793	6	53	70	0	0	0	0	0	129
31	原鶴温泉病院	409	0	4	0	15	0	0	0	0	19
32	副島整形外科病院	8,038	0	20	67	5	0	13	0	0	105
計		90,180	1,021	2,395	2,932	7,069	119	489	152	295	14,474

研修病院と研修可能な分野

研修病院	指導医数	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療
久留米大学病院	10	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
久留米大学医療センター	6		●	●	●	●	●	●		●	●
豊堂岩尾整形外科病院	1			●	●		●				
潤心会熊本セントラル病院	1		●			●		●			
薩摩郡医師会病院	1				●					●	●
済生会日田病院	1				●					●	●
医療法人百武整形外科病院	2		●	●	●		●			●	●
聖医会藤川病院	2				●					●	●
安寿会田中病院	1				●					●	●
啓心会 啓心会病院	2									●	●
済生会福岡総合病院	2	●	●	●	●					●	●
大牟田市立病院	1				●					●	●
公立八女総合病院	1			●	●	●					
筑後市立病院	2			●	●		●	●		●	●
慶仁会川崎病院	3		●	●	●	●	●			●	●
雪の聖母会 聖マリア病院	2	●	●	●	●			●		●	
高邦会柳川リハビリテーション病院	2			●	●	●				●	●
恒生堂 永田整形外科病院	1				●					●	●
俊聖会 甘木中央病院	2				●					●	●
高邦会 高木病院	1			●	●	●				●	●
宗像水光会総合病院	2				●					●	●
城内病院	3	●	●				●			●	●
朝倉医師会病院	1		●	●	●						
副島整形外科病院	1				●						●
原鶴温泉病院	2		●		●						
北副島医療センター	1				●						●
済生会二日市病院	1	●		●	●		●		●	●	

②研修コースの具体例

本専門研修コースの具体例として下表のごとく、久留米大学整形外科の専門研修施設群の各施設の特徴（脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍）に基づいたコースの例を示しています。各専門研修コースは、各専攻医の希望を考慮いたしますが、基本的には基幹施設である久留米大学病院から研修を始めていただきます。そこで将来のサブスペシャリティを指導医に相談しながら、今後研修する連携施設を選択して、必須単位取得後もさらなる経験が必要と考えられる分野、将来希望するサブスペシャリティ分野を、重点的に研修することが可能です。

case1 スポーツ医を希望

	1年目	2年目	3年目	4年目
研修施設	大学	聖マリア病院	社会保険田川病院	筑後市立病院
a.脊椎 6単位	6			
b.上肢・手 6単位		6		
c.下肢 6単位			6	
d.外傷 6単位		6		
e.リウマチ 3単位	3			
f.リハビリ 3単位				3
g.スポーツ 3単位				3
h.地域医療 3単位			3	
i.小児 2単位	1			1
j.腫瘍 2単位	2			
流動 8単位			3	5
合計	12	12	12	12

case2 早期の開業(自宅継承)・就職希望

	1年目	2年目	3年目	4年目
研修施設	大学	済生会福岡総合病院	百武整形外科病院	希望病院
a.脊椎 6単位	3	3		
b.上肢・手 6単位		6		
c.下肢 6単位		3	3	
d.外傷 6単位			3	3
e.リウマチ 3単位	3			
f.リハビリ 3単位	2		1	
g.スポーツ 3単位			3	
h.地域医療 3単位			2	1
i.小児 2単位	2			
j.腫瘍 2単位	2			
流動 8単位				8
合計	12	12	12	12

case3 臨床大学院希望

研修施設	1年目				2年目				3年目				4年目			
	大学		聖マリア病院		大学院(大学)		大学院(大学)		大学		大学院(大学)		大学院(大学)			
a.脊椎 6単位											3			3		
b.上肢・手 6単位						3					3					
c.下肢 6単位		2									2			2		
d.外傷 6単位						6										
e.リウマチ 3単位		3									1			2		
f.リハビリ 3単位																
g.スポーツ 3単位		3														
h.地域医療 3単位						3										
i.小児 2単位		2														
j.腫瘍 2単位		2														
流動 8単位											3			5		
合計		12				12					12			12		

3. 久留米大学整形外科専門研修の目標

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を習得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医になることができます。また同時に専攻医は研修基幹中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- (1)患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- (2)自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）
- (3)診療記録の的確な記載ができること
- (4)医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- (5)臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を習得すること
- (6)チーム医療の一員として行動すること
- (7)後輩医師に教育・指導を行うこと

② 到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

(1) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を取得できるように、幅広く基本的、専門的知識を習得します。

(2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を身につけます。

(3) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を習得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。

- i . 経験症例から研究テーマを立案しプロトコルを作成できる
- ii . 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる
- iii . 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる
- iv . 研究・発表媒体には個人情報を含め無いように留意できる
- v . 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる
- vi . 統計学的手法を選択し、解析できる

さらに本研修プログラムでは学術活動として、下記2項目を義務的努力目標として定めています。

- i . 久留米大学整形外科講座開講記念会・同門会への参加、および開講記念会での研究発表
- ii . 外部の学会での発表（年1回以上）と論文投稿（専攻医研修期間中1編以上）

(4) 医師としての倫理性、社会性など

- i . 医師としての責務を自律的に果たし信頼されること（プロフェッショナリズム）

医療専門家である医師と患者を含む社会との契約を十分に理解し、患者、家族から信頼される知識・技能および態度を身につけます。本研修プログラムでは、指導医とともに患者・家族と診断・治療に関する説明に参加し、実際の治癒過程においては受け持ち医として直接患者・家族と接して行く中で医師としての倫理性や社会性を理解し身につけていきます。

- ii . 患者中心の医療を実践し、医の倫理・医療安全に配慮すること

整形外科専門医として、患者の社会的・遺伝学的背景もふまえ患者ごとの的確な医療を実践できること、医療安全の重要性を理解し事故防止、事故後の対応がマニュアルに沿って実践できることが必要です。本専門研修プログラムでは、専門研修（基幹および連携）施設で、義務付けられる職員研修（医療安全、感染、情報管理、保険診療など）への参加を必須とします。また、インシデント、アクシデントの意義、重要性を理解し、これを積極的に活用することを

学びます。インシデントなどが診療において生じた場合には、指導医とともに報告と速やかな対応を行い、その経験と反省を施設全体で共有し、安全な医療を提供していくことが求められます。

iii. 臨床の現場から学ぶ態度を習得すること

臨床の現場から学び続けることの重要性を認識し、その方法を身につけます。本専門研修プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく「患者から学ぶ」を実践し、個々の症例に対して、診断・治療の計画を立てて診療していく中で指導医とともに考え、調べながら学ぶプログラムとなっています。また毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンス、抄読会では個々の症例や文献から幅広い知識を得たり共有したりすることからより深く学ぶことができます。

iv. チーム医療の一員として行動すること

整形外科専門医として、チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動できること、的確なコンサルテーションができること、他のメディカルスタッフと協調して診療にあたることが求められます。本研修プログラムでは、指導医とともに個々の症例に対して、他のメディカルスタッフと議論・協調しながら、診断・治療の計画を立てて診療していく中でチーム医療の一員として参加し学ぶことができます。また、毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは、指導医・他のメディカルスタッフとともにチーム医療に一員として、症例の提示や問題点を議論していきます。

v. 後輩医師に教育・指導を行うこと

自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに受け持ち患者を担当してもらい、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担ってもらいます。本研修プログラムでは、基幹施設においては、後輩医師、他のメディカルスタッフとチーム医療の一員として、互いに学び合うことから、自分自身の知識の整理、形成的指導を実践していきます。

③ 経験目標（種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等）

(1) 経験すべき疾患・病態

本研修プログラムでは、都市型総合研修病院として年間 1,500 例以上の手術件数を取り扱う大型総合病院である聖マリア病院、福岡市の救急医療を担う都市型大型総合病院である済生会福岡総合病院、都市型総合病院である戸畑共立病院、済生会二日市病院、社会保険田川病院、大牟田市立病院、高邦会高木病院があり、さらに各分野の最先端治療を行う高度専門領域研修病院として久留米大学病院、久留米大学医療センターの関節外科センターがあります。また、地域医療の拠点となっている施設（地域中核病院）としての久留米総合病院、八女公立病院、慶仁会川崎病院、恒生会永田整形外科病院、熊本セントラル病院、済生会日田病院といった、幅広い研修が可能な連携施設が入っています。基幹施設である久留米大学病院整形外科では脊椎外科、手外科、高度外傷、骨軟部腫瘍、リハビリテーションと十分な症例数があり、基幹施設、連携施設での切

れ目ない研修で専門研修期間中に経験すべき疾患・病態は十分に経験することができます。また地域中核病院においては地域医療から様々な疾患に対する技能を経験することができます。

(2)経験すべき診察・検査等

別添する資料3：整形外科研修カリキュラムに明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は別添資料2：専門技能習得の年次毎の到達目標に示します。Ⅲ診断基本手技、Ⅳ治療基本手技については4年間で5例以上経験します。

(3)経験すべき手術・処置等

別添する資料3：整形外科カリキュラムに明示した一般目標および行動目標に沿って研修します。経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。

本研修プログラムの基幹施設である久留米大学病院整形外科では、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

(4)地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など）

別添する資料3：整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実際を経験します。

i. 研修基幹施設である久留米大学病院が存在する福岡県以外の地域医療研修病院において3ヶ月以上（3単位）以上勤務します。

ii. 本専門研修プログラムの連携施設（地域中核病院）としての久留米総合病院、八女公立病院、慶仁会川崎病院、恒生会永田整形外科病院、熊本セントラル病院、済生会日田病院といった幅広い連携施設が入っています。そのため、連携施設での研修中に以下の地域医療（過疎地域も含む）の研修が可能です。

- ・ 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践できる。
- ・ 例えばADLの低下した患者に対して、在宅医療やケア専門施設などを活用した医療を立案する。

(5)学術活動

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより30単位を取得します。また、臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、年1回以上の学会発表、筆頭演者として研修期間中1編以上の論文を作成します。

久留米大学整形外科教室が主催する開講記念会への参加（年1回）を行うことにより、臨床研究に対する考え方を習得することができ、また学会発表に対する訓練を積むことができます。

久留米大学整形外科同門会が主催する同門会（年1回）では、久留米大学もしくは他施設からの講師を招待し、講演をしていただき多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

4. 久留米大学整形外科研修の方法

① 臨床現場での学習

研修内容を修練するにあたっては、1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた習得単位数以上を習得し、3年9ヶ月間で45単位を習得する修練プロセスで研修します。

本研修プログラムにおいては手術手技を600例以上経験し、そのうち術者としては300例以上を経験することができます。尚、術者として経験すべき症例については、別添する資料3：整形外科専門研修カリキュラムに示した（A:それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B:それぞれについて最低1例以上経験すべき疾患）疾患の中のものとします。

術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術方法や注意点を深く理解し、整形外科専門技能の習得を行います。

指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

② 臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各研修セミナーで国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。特に本研修プログラムでは、久留米大学整形外科同門会が主催する同門会（年1回2講演、4年間で8講演）参加することにより、久留米大学もしくは他施設からの講師からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

また久留米市では1回/2月ほどのペースで筑後臨床整形外科医会が開催され、その会に積極的に参加することでさらに幅広い知識を習得することが可能です。もちろんそれらの講演は全て日本整形外科学会研修単位に加算されていきます。

③ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成するe-learningやteaching fileなどを活用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会卒後研修用DVD等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。

④ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技量だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始し

ても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得することを目標とします。

(1)具体的な年度毎の達成目標は、資料 1:専門知識習得の年次毎の到達目標及び資料 2:専門技能習得の年次毎の到達目標を参照のこと。

(2)整形外科の研修で習得すべき知識・技能・態度は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性を対象とし、専門分野も解剖学的部位別に加え、主要、リウマチ、スポーツ、リハビリ等多岐に渡ります。この様に幅広い研修内容を修練するにあたっては、別添した研修方略（資料 6）に従って 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制を取り、全カリキュラムの 10 の研修領域に分割し、それぞれの領域で定められた習得単位数以上を習得し、3 年 9 ヶ月間で 45 単位を習得する修練プロセスで研修します。研修コースの具体例は上に別表 2 に示した通りです。

5. 専門研修の評価について

① 形成的評価

(1)フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料 7）の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表（資料 8）で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表（資料 7）の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医システムから web で入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的かつ建設的なフィードバックを行います。

(2)指導医層のフィードバック法の学習(FD)

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

② 総括的評価

(1)評価項目・基準と時期

専門専攻研修 4 年目の 3 月に研究期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例報告をもとに総

合評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

(2)評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修基幹全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

(3)終了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて終了判定を行います。

終了認定基準は、

- i .各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること（別添の専攻医獲得単位報告書（資料 9）を提出）
 - ii .行動目標のすべての必須項目について目標を達成していること
 - iii .臨床医として十分な適性が備わっていること
 - iv .研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること
 - v .1 回以上の学会発表、筆頭演者としての 1 編以上の論文があること
- の全てを満たしていることです。

(4)他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種（看護師、技師等）の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価（資料 10）に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

6. 研修プログラムの施設群

専門研修基幹施設

久留米大学病院が専門研修基幹施設となります。

専門研修連携施設

久留米大学整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。専門研修連携施設の認定基準を満たしています。

- ・ 久留米大学医療センター
- ・ 医療法人 社会保険田川病院
- ・ 医療法人 豊堂 岩尾整形外科病院
- ・ 医療法人 潤心会 熊本セントラル病院
- ・ 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 大分県済生会日田病院
- ・ 公益社団法人 薩摩郡医師会 薩摩郡医師会病院
- ・ 医療法人聖医会 藤川病院
- ・ 医療法人安寿会 田中病院
- ・ 医療法人啓心会 啓心会病院
- ・ 医療法人社団真仁会 境野病院
- ・ 社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会福岡総合病院
- ・ 地方独立行政法人 大牟田市立病院
- ・ 公立八女総合病院
- ・ 地方独立行政法人 筑後市立病院
- ・ ゆうかり医療養育センター
- ・ 医療法人 原鶴温泉病院
- ・ 医療法人社団高邦会 柳川リハビリテーション病院
- ・ 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院
- ・ 医療法人 恒生堂 永田整形外科病院
- ・ 医療法人社団慶仁会 川崎病院
- ・ 医療法人社団俊聖会 甘木中央病院
- ・ 医療法人社団高邦会 高木病院
- ・ 宗像水光会総合病院
- ・ 社会福祉法人恩賜財団済生会支部 済生会二日市病院
- ・ 成田整形外科病院
- ・ 医療法人鷹ノ羽会 村上外科病院
- ・ 社会医療法人共愛会 戸畑共立病院
- ・ 独立行政法人 地域医療機能推進機構 久留米総合病院
- ・ 医療法人 城内病院
- ・ 医療法人 整和会 副島整形外科病院
- ・ 朝倉医師会病院
- ・ 公益財団法人 仁泉会 北福島医療センター

専門研修施設群

久留米大学整形外科と連携施設により専門研修施設群を構成します。

専門研修施設群の地理的範囲

久留米大学整形外科研修プログラムの専門研修施設群は福岡県および大分県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、福島県にあります。施設群の中には、地域中核病院が含まれています。

福岡県以外の他県にある連携施設とは長年にあたって人事交流があります。久留米大学から派遣された医師はその地域において地域医療の中心となり病病連携、病診連携を経験することを目的に他県における研修を行います。

7. 専攻医受入数

各専攻医指導施設における専攻医数の総数の上限（4 学年分）は、当該年度の指導医数×3 を担っています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、（年間新患数 500 例、年間手術症例を 40 例）×専攻医数とされています。

門研修基幹施設である久留米大学病院整形外科と連携施設全体の 2017 年度における指導医数 57 名、年間新患数 90,180 名、年間手術件数 14,474 件と十分な指導医数・症例数を有し、質量ともに十分な指導を提供できる体制です。

8. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また地域医療研修病院における周囲医療基幹との病病連携、病診連携を経験・習得します。本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である久留米大学病院が存在する、久留米市以外の地域専門研修病院に 3 か月（3 単位）以上勤務することによりこれを行います。

地域において指導の質を落とさないための方法として、地域医療研修病院の指導医には久留米大学整形外科同門会が主催する同門会講演会の参加を義務付け、久留米大学内外の講師の多領域における最新知識に関する講義を受けると同時に、自らが指導する専攻医の集談会あるいは学会への参加を必須とするとしています。また研修関連施設の指導医は、研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けることになります。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

久留米大学整形外科研修プログラムでは各指導医が脊椎・脊髄外科、関節外科、スポーツ整形外科、外傷、手外科、骨軟部腫瘍、リハビリテーション等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来思考する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもと、よ

り深い研修を受けることができます。なお、専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。

10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

女性医師の方で、妊娠、出産、育児（育児は男性も可能性があります）で休業が必要な方、その他、疾病などでやむを得ない理由がある場合の研修休止期間は合計 6 か月以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。妊娠・出産の場合はそれを証明するもの、疾病の場合は診断書の添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。しかし臨床大学院に所属し実際の臨床の場にいる場合（外来診察、カンファレンスの参加、手術助手、受け持ち患者の存在等）あれば研修期間として検討します。また研修の休止期間が 6 か月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラム移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

11. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である久留米大学病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価や専攻医評価などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います

上記目標達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

② 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

(1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。

(2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。

(3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。

(4) 施設の給与体制を明示し、4 年間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身および健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行います。

総括的な評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は久留米大学病院整形外科専門研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として別添資料の日本整形外科学会が作成した整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システム（作成中）を用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録数を web 入力で行います。日本整形外科学会非会員は、紙評価表を用います。

② 人間性などの評価の方法

指導医は別添の研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表（資料 10 参照）を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医マニュアル（資料 13）、②整形外科指導医マニュアル（資料 12）、③専攻医取得単位報告書（資料 9）、④専攻医評価表（資料 10）、⑤指導医評価表（資料 8）、⑥カリキュラム成績表（資料 7）を用います。③、④、⑤、⑥は日本整形外科学会非会員の場合、紙評価表、報告書を用います。

(1) 専攻医研修マニュアル

日本整形外科学会が作成した整形外科専攻医カリキュラム参照。（日本整形外科学会ホームページ参照）自己評価と他者（指導医等）評価は、整形外科専門医管理システム（作成中）にある④専攻医評価表（資料 10）、⑤指導評価表（資料 8）、⑥カリキュラム成績表（資料 7）を用いて web 入力します。

(2) 指導医マニュアル

日本整形外科学会が作成した別添の整形外科指導医マニュアルを参照。（日本整形外科学会ホームページ参照）

(3) 専攻医研修実績記録フォーマット

整形外科研修カリキュラム（資料7参照）の行動目標の自己評価、指導医評価及び経験すべき症例の登録は日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムを用いて web フォームに入力します。日本整形外科学会会員は紙入力で行います。

(4)指導医による指導とフィードバックの記録

日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表、指導医評価表 web フォームに入力することで記録されます。尚、非学会員は紙入力で行います。

(5)指導者研修計画（FD）の実施記録

指導医が、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講すると指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会は監査（サイトビジット）の時に提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存されます。

13. 専門研修プログラムの評価と改善

①専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

② 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムを行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

③ 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構などから外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修医および専攻医には真摯に対応、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について専門医の整形外科研修委員会に報告します。

14.専攻医の採用と修了

①応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

②採用方法

基幹施設である久留米大学病院整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年 7 月頃より説明会を複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『久留米大学整形外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出します。申請書は医局に電話で問い合わせ（0942-31-7568）をすること、また、医局に e-mail で問い合わせ（seikei@med.kurume-u.ac.jp）、のいずれの方法でも入手可能です。原則として 10 月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については 12 月の久留米大学病院整形外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

③修了要件

- (1)各習得すべき領域分野に求められている必要単位をすべて満たしていること
- (2)行動目標のすべての必須項目について目標を達成していること
- (3)臨床医として十分な適性が備わっていること
- (4)研修期間中に日本整形外科学会が主催または認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること
- (5)1 回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること

以上(1)～(5)の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。